

**認定 NPO 法人アサザ基金**

**第 16 期（2014 年度）事業報告書**

**2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日**

# 第16期（2014年度）事業報告

## 一目 次一

霞ヶ浦の再生事業	3-4
環境教育事業	4-5
水源地保全事業	5-7
地域循環型社会構築に関わる事業	7-8
助成事業など	8-9
その他	9-10

アサザプロジェクトに関する講演、視察、取材、報道など

アサザプロジェクトに関する公表成果、新聞記事

## 第16期事業報告書

### アサザプロジェクトへの参加人数

2014/4~2015/3

環境教育事業	10,153
水源地保全事業	2,138
その他	873
計	13,164名

1995年発足から、アサザプロジェクトへの参加者数は延べ271,458名となりました。

# アサザプロジェクト第16期事業報告

1995年にアサザプロジェクトが開始して20年となります。100年計画の目標「トキが舞う霞ヶ浦」は近づいているでしょうか。私達はこれまで「霞ヶ浦の再生」に向け、様々な提案や新しい事業を展開してきました。環境学習や企業との協働による水源地保全事業には、多くの方々の共感をいただき成果がでています。しかし、市民や自然を無視した従来の行政依存で縦割り体制の政策が勢いをまっています。私たちは、このような時代の流れを開拓するために、アサザプロジェクトが進めてきた「新しい発想」による価値創造的な取組みの実現に努力してまいりました。

2014年4月から2015年3月までに13,164名がアサザプロジェクトの活動に参加しました。

## 湖の再生事業

アサザ基金が様々な主体と協働で行ってきた湖の再生事業は、学校ビオトープを利用した環境教育、アサザの系統保存と水生植物保護、市民参加による水生植物の植付け、常陸川水門（逆水門）の柔軟運用等の政策提言、放射能汚染に関するモニタリング等、いずれも湖の再生に係るアサザプロジェクトのネットワークを活かした事業です。流域の他の事業との成果がここに反映され、相乗的な効果を生むことで広大な霞ヶ浦の再生が期待されます。

### 植生帯復元地区への植付け・生物調査

アサザは2006年が再生のピークで、その後年々減少し、2014年度は国土交通省との保全事業が始まる前のレベルにまで減少しています。アサザ保全のため、植付けを行いました。合わせて、湖の生態系授業の他、アサザの育成や苗の株分け、植付けの指導を行いました。3地区（根田・木原・浜）で8回実施し、保育園の子供達や企業の方々など延べ251名が参加し、植えつけたアサザの株数は275株となりました。

三井物産株式会社 (8/2 木原 30株 18名 堂崎鼻株)

茨城日化サービス(株) (8/3 浜 90株 80名 堂崎鼻株)

\* (株)ツムラ様の育てた株もご提供いただき、湖に植付ました。

コカ・コーラライーストジャパン(株)公募市民 (8/19 木原 20株 40名 堂崎鼻株)

コカ・コーラライーストジャパン(株)公募市民 (8/22 木原 20株 40名 堂崎鼻株)

NEC フィールディング株式会社 (8/23 根田 20株 10名 堂崎鼻株)

納場保育園 (9/4 浜 35株 35名 堂崎鼻株)

日立化成株式会社 (9/13 浜 30株 15名 堂崎鼻株)

新宿カッパ村 (9/15 木原 30株 13名 堂崎鼻株)

### アサザの系統保存と里親

アサザは依然として危機的状況にあります。国交省霞ヶ浦河川事務所(潮来市)、(独)水資源機構霞ヶ浦開発総合管理所(稲敷市)および霞ヶ浦ふれあいランド、流域の学校ビオトープでアサザの系統保存を継続しています。また、主旨に賛同した学校や団体、企業や市民の方にも里親として協力していただきました。

### 霞ヶ浦・北浦の放射能汚染対策事業

2011年、福島第一原発の事故により環境中に放出された放射性物質が地表から、56本の流入河川へと入り、時間の経過とともに霞ヶ浦・北浦へ流入し、高濃度汚染が進んでしまうことが懸念されます。事故後4年経過し、地表に降り注いだ放射性物質のかなりの量が霞ヶ浦へと移っていっていることが想定されます。しかし、状況を把握するための調査をはじめとした行政の対応は不十分です。私たちは市民モニタリングを継続し、十分な対応が取られるよう関係機関と協力して働きかけを継続していきます。

底泥採取・放射能計測の実施 流入河川および4河川詳細調査（調査結果はHPに掲載）

第5回 市民モニタリング 2014年 4~5月実施

第6回 市民モニタリング 同年10~11月実施

第7回目となる霞ヶ浦放射能市民モニタリング報告会を、5月24日に「原発いらない牛久の会」と共催で、牛久市で開催しました。前回に引き続き東京大学の小豆川先生をお招きし、具体的な放射線測定の方法などのお話を伺いました。アサザ基金からは、霞ヶ浦流入河川における第5回市民モニタリングの測定結果を報告しました。また、牛久市内の通学路の測定結果を父兄が報告しました。当日の参加者は60名でした。

### 水郷トンボ公園の維持管理

1998年の開園以来、潮来ジャランボプロジェクト実行委員会が中心となってトンボ公園の維持管理作業を行ってきましたがメンバーの高齢化等も伴い、今年度からアサザ基金が業務を受諾し連携して管理作業を進めました。

5/18 開園作業から11/1閉園作業まで、田植え、池の攪乱、江間の整備、稲刈り・脱穀、除草、樹木の手入れ等ジャランボPJと協力して行いました。また、5/18には都内から田植え体験、生きもの観察に親子連れ約20名が参加しました。7/5 コカ・コーラの社員約20名にボランティア参加して頂き、除草作業等を行いました。9/14にはアサザ基金に研修で来られた自衛官の方やCSOラーニング生で稲刈り・脱穀や除草作業を行いました。委託費400,000円で業務を進めました。

12/4にジャランボPJの総会がアサザ基金事務所で開催され、今後の活動について話し合いました。

### 環境教育事業

新しい社会を築いていくためには、新鮮な感性と豊かな創造力、行動力を持つ人材の育成が不可欠です。アサザプロジェクトの環境学習は、単なる環境知識の普及に留まらず、こども達の視野を広げ新たな発想へと導く学習を目指しています。

霞ヶ浦流域外では、秋田県や宮城県、三重県、北九州市が継続し、新たに長野県も加わり、全国に展開しました。企業と協働ですすめる環境学習も東京都を中心に継続しました。

2014年度は全体で10,153名の児童生徒が参加しました。

### 霞ヶ浦流域での環境学習

霞ヶ浦流域内の小中学校（牛久市を除く）では、総合学習の時間を活用した環境教育に543名の児童が参加しました。活動資金としてセブン—イレブンみどりの基金、霞ヶ浦ゆめ基金から充てました。

牛久市内では牛久市教育委員会と協働で＜学校ビオトープから始まるまちづくり事業＞（2004年から継続）を進め、全13の小中学校で84回環境学習を実施し、7,423名が参加しました。

2015年1月31日「カッパ大交流会（ビオトープからはじまるまちづくり事業報告会）」では、「スローシティのまちづくりを目指す牛久市への提言」をテーマに、市内小中学校の代表校4校（奥野小、中根小、牛久二中、牛久南中）と、三重県大紀町から「七保未来塾」の生徒8名が参加し、環境学習の成果を発表しました。

牛久市教育委員会から事業委託費として1,289,520円を活動費に充てました。

### 環境学習の全国展開

\* 秋田県八郎湖流域では、潟上市、三種町内の小学校6校で19回延べ946名が環境学習に参加しました。

\* 三重県では大紀町立七保小と大台町立宮川小において、子ども達を中心に地域活性化と環境保全の一体化を目指す環境学習を行い207名が参加しました。

\* 北九州市では曾根東小、市丸小、すがお小に6、10、11月に訪問し、環境学習に532名が参加しました。

\* 被災地である宮城県南三陸町の伊里前小学校では復興をテーマに環境学習を継続しました。6、8、10、12、2月に訪問し計215名の児童が参加しました。

\* 過疎化がすんでいる長野県天龍村で3回の訪問授業を実施しました。参加児童は90名。

\* 沖縄県では2015年度に向けての活動準備として、沖縄市内の子ども会で地域を知る学習を行い、3名が参加しました。

これらの活動には、各自治体や地球環境基金の助成金を充てました。

### 企業との協働による環境学習

NECキャピタルソリューション(株)と協働で進める「わくわく子どもの池プロジェクト」(2007年度～) このプロジェクトは、東京など都市の中に生存する生きものの「生きものの道」を広げるために、都会のこどもたちと生きものの目で都市空間を見直し、生きものの供給拠点となる学校ビオトープをつくることで、学校のまわりからやってくる生きものと共生できる環境を広げていくためのまちづくりの提案をこどもたちと行っていく取り組みです。

今年度は港区の小学校で環境教育プログラムを提供、実践し、NECキャピタルソリューション(株)社員の社会貢献・社員ボランティア育成の一環として実施しました。のべ4回の授業を実施し、152名の子供たちが参加しました。昨年度までにビオトープを造成した小学校で、やってきた生きものを観察する授業も行いました。

「わくわく子どもの池PJ協働事業費」として119,455円の支援をいただきました。

### 環境教育プログラムを提供した小学校

- 1 港区立赤坂小学校環境委員会
- 2 港区立笄小学校 4年生
- 3 港区立本村小学校 4年生

## 水源地保全事業

### 「NEC 田んぼづくりプロジェクト with アサザ基金」(NEC CSR・環境推進部委託 2004年～)

活動場所を2010年から石岡市→牛久市上太田に移行を進めていましたが、今年度から本格的に上太田での活動が始まりました。

上太田地区の谷津田はほぼ全域が耕作放棄地のため、水源地としての維持や治水効果、さらには生態系の多様性が失われようとしています。再生前の現況調査から社員ボランティアに参加いただき、データを取りながら、全長1キロの谷津田全体を再生することで実物大の社会モデルとして「トキが舞う谷津田」の実現を目指します。

2014年度は以下の日程で事業を実施しました。

#### 全社行事

田植え(5/31実施 102名参加)

草取り(7/26実施 92名参加) 稲刈り(10/25実施 92名参加)

脱穀(11/16実施 99名参加) 再生計画・味噌づくり(2/14実施 62名参加)

達人コース 全14回 127名

\*新酒仕込み、新酒蔵出し(東田中、上太田合同イベント)

参加者 合計 574名

2014年度初めての取組みとして、踏耕(ふみこう)と呼ばれる方法で耕作放棄された荒地に道をつくりています。また、達人散策路の延長も行いました。

竹林整備で切り出した竹は、今年度からNPO法人おおぞら(障がいのある方々の地域生活を支援するNPO)に竹を粉碎して頂いています。

また、牛久市内小学生の環境学習野外活動や、企業のボランティアフィールドとしてもNECの谷津田を活用させていただきました。

業務委託費4,623,983円(税込)を活動費に充てました。

### 三井物産谷津田再生プロジェクト(三井物産(株)三井物産環境基金委託 2007年～)

アサザ基金で行っている霞ヶ浦流域での自然再生事業と三井物産環境基金のボランティア活動が連動し、三井物産役職員とその家族を対象に、環境意識の向上と基金活動への参加意識醸成を目的に、米作りなど谷津田再生を通じた年間の自然体験プログラム「谷津田再生プロジェクト」を実施しました。

本事業地は牛久沼の水源に位置し、アサザプロジェクトの牛久沼再生活動の基盤にもなっています。耕作放棄された水田を再生してから7年が経過し、無農薬のコメ作りもだいぶ作業がはかどる

ようになってきました。そこで活動フィールドを田んぼだけではなく、周辺の林の整備へと広げています。それにあわせて多くの生きものたちが見られるようになって来ています。

2014年度は以下の5回のプログラムを実施しました。

田植え（6/8 25名） 草取り（6/29 18名） 稲刈り（10/4 66名）

酒仕込み・パン作り（1/17 38名） 蔵出し・谷津田整備（3/7 34名） 参加者合計 181名  
業務委託費として、5,783,400円を醸造委託製造や水田管理、プログラム運営費用に充てました。

#### 一橋大学大学院との谷津田再生プロジェクト（一橋大学協働事業 新規）

広がる耕作放棄地を解消し、水源地の生物多様性を保全していくためにはこれまで以上のビジネスモデルによる展開が必要です。そこで一橋大学のICS（一橋大学国際企業戦略研究科）の学生たちとともに牛久沼の水源地の保全・再生、そして学生自らがブランド化する日本酒づくりを通して、水源地を保全・再生していくための方法を考え、実践しました。学生の大半は海外からの留学生で、新しい視点からの谷津田保全のビジネスモデルを数々提案いただきました。

今年度は2回の講義の他、田植え（5/10）などを実施し、のべ156名が参加しました。

・講義（4/9 5/14） ・田植え（5/10）

事業実施費として、600,000円をいただき事業を実施しました。

#### UBS RICE Project (UBS証券会社委託 2008年～)

UBS証券会社と山之上谷津田再生協議会と協働で、2008年から霞ヶ浦・北浦の水源地（谷津田）の再生事業として、霞ヶ浦・北浦の水質保全のために、無農薬で米作りを行い、環境と地域に貢献するRICE (Rural Investment in the Community and Environment) Projectを実施しました。このプロジェクトは、水源地再生、生物多様性保全のみならず、地域や地場産業の活性化、環境教育の場の提供、地域人材の育成など、多方面への波及効果が期待できる価値創造型の取り組みになっています。鹿嶋市山之上の谷津田約8反の水田を保全しています。現地では、地元の山之上谷津田再生協議会と協力し、フィールドの管理やイベント運営を行いました。

2014年度は鹿嶋市山之上において4回の個別プログラムを実施しました。

田植え（5/24 142名） 草取り（6/21 82名） 稲刈り（10/5 70名） 蔵出し（1/27 93名）  
参加者合計 387名 業務委託費 6,920,000円で事業を実施しました。

#### ホギメディカル谷津田再生プロジェクト (株ホギメディカル委託 牛久市との協働 2009年～)

牛久市のホギメディカル筑波工場に隣接し、荒れてしまった谷津田を新たな価値を作り出しながら再生し、昔ながらの田んぼづくりや谷津田の管理を行いながら、ホタルを課題解決の指標として、くほたるの郷を目指す取り組みです。昨年度まで見られなかった下の田んぼでホタルを確認することができました。今年度は、大きなため池を設置しました。池を作ることによって。サギ、シギ、カモ、カワセミといった水鳥が昨年度より数多く確認されました。また、牛久市が行った魚放流イベントよりナマズをもらい、池に放流しました。

2014年度は5回の個別プログラムを実施しました。

田植え（6/7 105名） 草取り（7/13 73名） 稲刈有志（9/20 22名） 稲刈（10/18 83名）

酒仕込み（2/9 26名） 新酒蔵出し（3/21 37名） 参加者合計 346名

業務委託費 7,720,000円で事業を実施しました。

#### UBS Forest Honey プロジェクト (UBS証券株式会社の寄付 牛久市と協働 2010年度～)

霞ヶ浦の水源となる谷津田の周りには林があり、林はその水源を涵養する機能を持っています。水源の森を保全することで、水源地の保全・再生、里山の原風景の再生、生物多様性保全、地域の活性化、環境教育の場の提供、地球温暖化防止などの効果を生んでいます。また、森ではミツバチの巣箱を設置し、各季節の蜜を味わうことで森の変化を感じます。土作りの堆肥は周辺の牧場から頂いています。この事業は、主にUBS証券株式会社からの寄付金で行っています。

今年度は2回の個別プログラムを実施しました。

土づくり、ささ刈等（4/29 67名） 採蜜、外来種抜き、看板作り等（7/20 45名） 合計 112名

今年度の活動費用として約1,000,000円をUBS証券株式会社の寄付金から充てました。また、牛久市より草刈り用の消耗品代15,000円頂きました。

#### 損保ジャパン日本興亜環境財団CSOラーニング生による水源地保全を目的とした循環型会構築 通称：かっぱんだプロジェクト（2010年度～）

損保ジャパン日本興亜環境財団「CSOラーニング制度」ラーニング生を対象とした人材育成と、牛久沼水源地の保全や生物多様性保全を目的に、牛久沼の水源地である谷津田の再生やつながりを生み出す商品づくりに取り組みました。

今年度も、2011年度に復田した谷津田（牛久市遠山）にてマンゲツモチを作付けし、収穫した米を使って小美玉市の大形屋商店にて霞ヶ浦のザザエビを入れたせんべいを作りました。また、下記の活動に取り組みました。

4/29 代掻き16名・5/17 田植え32名・6/28 草取り有志5名・7/19 草取り23名・9/20-21 稲刈り合宿31名・10/12 脱穀有志10名・2/24 里山整備有志4名・2/28 収穫祭49名

参加者合計 170名

活動費用としては損保ジャパン日本興亜環境財団から協賛金851,420円を充てました。

\* 2014年度から新たに復田する田んぼが見つかり契約が完了し活動しています。

#### レンコンづくりによる谷津田再生事業（NECフィールディング株式会社委託 2012年～）

2012年8月よりNECフィールディング株式会社とNPO法人アサザ基金の協働による霞ヶ浦の水源であり、里山の生きものの重要なすみかである谷津田の新たな保全再生事業が始まりました。このプロジェクトは、霞ヶ浦を代表する作物であるレンコンづくりを通じて谷津田の保全を行う初めてのプロジェクトで、霞ヶ浦にも近い土浦の谷津田で行います。霞ヶ浦の水源は大きな流入河川ではなく、湖の周りに数多く点在する谷津田です。その谷津田の多くは近年耕作放棄されることが多く、社会問題にもなっています。しかしきれいな水を供給する機能を持つ谷津田の一部でレンコン栽培が広く行われるようになり、湖の水質を悪化させる富栄養化物質がレンコンづくりのための水田（ハス田）から流出していると近年指摘されています。そこで、本プロジェクトは無化学肥料（可能な限りの低肥料）無農薬栽培によるレンコンづくりを行うことで、まだ誰も取り組んでいない「環境保全レンコンブランドづくり」を定期的な社員ボランティアの参加により取り組みます。

今年度は主に耕作放棄されたハス田の再生作業を12回実施し、参加者は107名でした。

協働事業の実施費として、388,122円をいただき運営しました。

## 地域循環型社会構築に関わる事業

#### 森と湖と人と農をつなげるビジネスモデル事業（2004年度～）

霞ヶ浦では外来種問題が深刻な状況にあります。外来魚や未利用魚を漁業者から買い上げて魚粉化し、肥料や家畜の餌として農業に使用してもらい、生産された農産物はブランド化して販売するという、環境保全を組み込んだ地域活性化の事業を2004年に提案し、流域ブランド「湖がよろこぶ野菜たち」が誕生しました。それらの野菜をカスミ（株）の21店舗で販売するなどの成果をあげてきましたが、2011年3月11日に起きた東日本大震災後の原発事故による放射能汚染問題で外来魚の水揚げが困難となり、事故以前に水揚げした外来魚の魚粉を活用してこの事業を継続しています。

##### ◆ 流域ブランド「湖がよろこぶ野菜たち」

今年度もJAやさとのキュウリやゴボウはカッパちゃんシールをつけて出荷され、カスミ（株）の21店舗で販売。現在、JAやさとのぼかし肥にこの魚粉が配合されており、様々な作物の栽培に活用されています。

#### 「人も河童も喜ぶWIN-WIN型循環社会の構築」（キヤノンマーケティングジャパン株式会社協働事業 2009年～）

流域に広がる耕作放棄地の再生、外来魚の駆除・魚粉化による生物多様性保全・水質浄化、食用油となる資源作物の栽培、霞ヶ浦の自然再生・活性化事業によってできる材料を活用したせんべいづくりに福祉作業所に参画いただくなど、霞ヶ浦流域を活性化するための取り組みを進めてきました。畠での活動は5年目を終えた所で、今年度は2つのモデルづくりに取り組みました。

1. 霞ヶ浦の生物多様性を保全する果樹園モデルづくり

2. 霞ヶ浦ブランドの醤油モデルづくり（柴沼醤油醸造さんとの協働）

・ソバ打ち・果樹園づくりのための耕作放棄地整備（4/19）

・大豆種まき（7/5）雨天中止

・畠の土づくり作業・果樹園づくりのための耕作放棄地整備（9/20）雨天中止

・大豆の収穫、水源地の川探検（11/15）

・果樹園づくりのための整備作業、栗の苗植え（12/6）

など3回のプログラムを実施し、84名の参加をいただきました。

プロジェクト運営費とプログラム開催費用などとして1,700,000円を支援いただきました。

#### 日本テキサス・インスツルメンツ(株)美浦工場 花畠プロジェクトへの協力（2011年～）

日本テキサス・インスツルメンツ美浦工場では近接地にある耕作放棄地を再生し、霞ヶ浦の外来魚でできた魚粉を活用し、花畠を作り、その成果を活用して地域貢献・環境保全を行っていくプロジェクトが2011年度に立ち上りました。アサザ基金はその取り組みに賛同、協力しています。ヒマワリやナタネを栽培し、収穫し、絞った油をテキサスさんで活用されています。

#### 「しょうゆで自然とつながろうプロジェクト」（日立化成株式会社協働事業 2012年度～）

霞ヶ浦の自然に育まれてきた土浦のしょうゆづくりは江戸時代に始まり今に続いています。霞ヶ浦と江戸を結ぶ舟運で栄えた土浦は、関東の醤油三大醸造地のひとつでした。筑波山周辺に広がる平地で大豆が栽培され、出来た醤油は霞ヶ浦、そして利根川を通り江戸に運ばれ、食卓を彩ったそうです。醤油づくりは霞ヶ浦流域を代表する伝統的産業です。この取り組みでは、霞ヶ浦の自然再生と活性化を進める醤油づくり、ブランドづくりに日立化成株式会社・柴沼醤油醸造株式会社・アサザ基金の協働で取り組みました。

耕作放棄地を再生し大豆づくり、外来魚の駆除・魚粉化による生物多様性保全・水質浄化、地元の小学校も参加して醤油の名前をつけ、霞ヶ浦を再生し、活性化するためのしょうゆづくりに取り組みました。この各段階に社員ボランティアが参加し、事業を進めました。

今年度、昨年度に仕込んだ醤油が出来上がり、社員の方々をはじめ、地域の協力者や様々な方にできた醤油をお配りし、多くの反響をいただきました。オリジナル醤油づくりは一段落しましたが、今後も柴沼醤油醸造株式会社さんとの協働で霞ヶ浦ブランドの醤油づくりに取り組んでいきます。

・9/13 畠の土壤改良作業とアサザの植え付け 15名

・11/8 アサザの植え付けと大豆畠の草取り 15名

参加者総計 30名

活動費として500,000円を支援いただきました。

#### 助成事業など

##### セブン-イレブンみどりの基金「継続プロジェクト助成」（助成期間：2012/3/1～2015/2）

セブン-イレブンみどりの基金から、組織運営費（人件費一人分）と霞ヶ浦流域の環境学習活動費用などに、年間3,000,000円の助成をいただきました。アサザプロジェクトの展開を図る上で基盤となる事務局運営において貴重な財源となりました。今期で終了となりました。

##### 研修生の受け入れ

・「損保ジャパン日本興亜環境財団の「CSOラーニング制度」から2名のインターン生を受け入れました。（7月から2月の8ヶ月間）アサザプロジェクト全般について体験するとともに、水源

地保全米を使用した製品の商品開発や販路拡大のための企画づくり、牛久南中学校での環境学習の活動支援、ラーニング生を巻き込んだイベントの企画・調整に取り組みました。

- ・牛久南中1年生有志アサザクラブの生徒を受け入れました。
- ・短期研修として、秋田県立大の学生4名を受け入れ（3月5日～8日）、アサザプロジェクトの理念を学ぶとともに、企業との蔵出しイベント等を体験していただきました。

#### イオンのイエローレシートキャンペーン

土浦イオン店において、毎月11日のイエローレシートキャンペーンからレシート総額の1%をご寄付（4/9 42,100円、10/9 40,200円）いただきました。イベント用器具や事務所内の消耗品等を購入するなど、有効に活用させていただきました。

#### 日本コカ・コーラ株式会社及びコカ・コーライーストジャパン株式会社との事業

コカ・コーラ社との協働事業が充実してきました。1つは、日本コカ・コーラ株式会社が毎年行ってきた、国際海岸クリーンアップコーストクリーン活動を霞ヶ浦湖岸（かすみがうら市）にて行いました。日本コカ・コーラ社社長を始め、多くの方にアサザプロジェクトの取り組みのプレゼンも行うことができ、有意義な活動となりました。他に、土浦市に製造工場を持つコカ・コーライーストジャパン（株）とはアサザの植え付け会のほか、今期から製品製造時に使用する地下水を涵養する水源保全の取組みが始まりました。この取り組みを通じて、アサザプロジェクトのネットワークの拡大や新たな事業展開に結び付けていきます。

#### その他

#### 原宿表参道・森の恵み・森の風プロジェクト（2009年度～）

昨年度に引き続き、神宮前小学校の夏季特別講座において、表参道界隈や明治神宮、代々木公園の野外観察を行いました。8/28に4名の児童が参加しました。

#### 自然保護のブランド米「オオヒシクイ米」の販売

オオヒシクイの越冬数は124羽と昨年の91羽の記録を更新し、1985年以来過去最多となりました。越冬地の農家さんのご協力と地元の支援体制が整い、オオヒシクイが安心して越冬出来る環境が維持されているためと思われます。2014年11月1日に越冬地である「稻波干拓地」が鳥獣特別保護区に指定されました。毎月1回のお米の発送の他、12月、3月にはのし餅の発送も合わせて行いました。

#### アサザプロジェクトオリジナル地酒「広がれあさざの夢」の流域ブランド化をすすめました！

水源地保全活動として再生した谷津田で栽培した米を原料に、アサザプロジェクトのオリジナル酒「広がれあさざの夢」が愛友酒造〈潮来〉で製造、販売されました。引き続き霞ヶ浦ブランドとしての定着を目指していきます。アサザ基金事務所でも支援金（1,100円）をいただくと「広がれあさざの夢」をお渡しできます。

#### 湖がよろこぶ煎餅プロジェクト

霞ヶ浦再生ブランドの煎餅を、小美玉市の大形屋商店さんと協働開発を始めました。水源地の再生、地域活性化、水産資源の保全を目的としています。煎餅の原料には密漁をしない漁師から仕入れた「ざざえび」と再生した谷津田でつくった無農薬栽培米の米粉を使用しました。せんべいのブランド化やマーケティングなどは牛久市内の中学生が行っています。谷津田再生事業に取り組んでいるNECとホギメディカルも栽培したもち米を活用して煎餅作りに参加しました。

#### 霞ヶ浦再生につながるしょうゆブランドづくり

柴沼醤油醸造株式会社、農家、流通業、地域の子どもたちなどと協働し、霞ヶ浦をブランドにする醤油づくりに取り組み始めました。本業を通じて霞ヶ浦の自然再生を進めていく仕組みを地域ぐるみでつくりていきます。地元スーパーなどにコンセプト提案などの活動を行い、実現に向けて動

き始めました。

#### トンボのスケッチ会

2014年8月12日に、牛久市立神谷小学校に隣接するカワセミの郷（児童の提案によって再生が実現した霞ヶ浦水源地）にて、恒例のトンボスケッチ会を行いました。参加者は27名。南中生2名も手伝いに来てくれました。今年も茨城トンボ㈱様から飲み物をご提供いただきました。

#### 会報の発行

会報「あさざだより」を2014年5月、9月、12月の3回（51～53号）発行し、会員の皆様や学校、関連企業などの関係者に配布し、活動紹介に努めました。（発行部数/毎号 約1200部）

#### ホームページ運営

アサザプロジェクトを紹介する窓口として、リアルタイムの情報発信に努めて参ります。HPに関する皆様のご意見ご感想をお寄せください。宜しくお願ひ致します。

#### 講演、視察研修の受け入れ

全国各地で開催されるシンポジウムや講演会、大学の講義などに代表理事の飯島が講演者やパネラー、講師として12回出席し、アサザプロジェクトの活動理念を紹介しました。

視察では、台湾にある中国生産力センター関係者31名や東京大学大学院、JETRO関係者など5団体を受け入れました。

#### 自主事業の財源確保

アサザプロジェクトは霞ヶ浦の環境保全と地域経済の活性化を両立させ、人と自然の共存できる社会の実現を目指して、多くの市民の共感を得ながら今日まで様々な事業を展開してきました。

アサザプロジェクトの中でも重要な位置づけになっている環境教育事業に係る活動資金が不足しています。また、放射能測定に係る費用も自主財源でまかなっています。自主的な活動をすすめていくためにはまだまだ活動資金が不足しています。

「アサザ基金に資金を託せば、よい社会の実現に繋がる」という流れを作っていくかねばなりません。

今年度の寄附総額は4,997,341円でした。

＜認定NPO法人＞に寄附しますと、下記のような納税の優遇も受けられます！

寄附者の寄付金の約50%を税額控除できます。

所得税に税額控除方式（所得にかかわらず原則的に減税額が同じ）が導入されましたので、控除割合は寄付金の40%（住民税10%と合わせて最大50%）となり →  
(寄附金額-2,000円) × 40%を所得税額から差し引くことができます。

例えば 所得金額に関係なく

\*1万円の寄付で3,200円減税！ \*10万円の寄付で39,200円減税！

弊基金は認定NPO法人ですので、3,000円以上であれば寄附者のみならず賛助会費、協力会費に対しても寄附扱いで寄付金受領証明書を発行致します。

会員の皆様には、お知り合いの方々にも弊基金の活動を紹介いただきまして、支援や協力の輪を広げてくださいますようご協力の程宜しくお願い申し上げます。